

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170400606
法人名	特定非営利活動法人 幸の里
事業所名	NPO法人 グループホーム幸の里
訪問調査日	平成21年3月17日
評価確定日	平成21年5月2日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2170400606		
法人名	特定非営利活動法人 幸の里		
事業所名	NPO法人 グループホーム幸の里		
所在地 (電話番号)	岐阜県羽島市中町城屋敷579-1 (電話)058-398-7333		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年5月2日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7.55 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000円 ~ (光熱費他)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	55 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団桃仁会 羽島クリニック・医療法人蘇面会 松波病院・医療法人純仁会 佐藤病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

うらかな春の日差しが差し込む縁側の、籐製の応接セットが評価のヒアリングの場所となった。小さな椅子にはそこが指定席のホームの飼猫が丸くなっていた。そこからは居間で過ごす利用者の様子がよく見える。「散歩に行くよ～」の声が聞こえた。とたん、我先にと行動を始める利用者の姿。3匹の飼猫も犬までもが利用者の声に反応して散歩の準備をしているようである。ホームが目指す「大家族」の日常は何とも賑やかだ。

利用者に対して「喜怒哀楽が人間のしるし。怒らせることも大事」と語ってくれる管理者の笑顔は、一家の嫁の真鍮がある。ありのままをありのまま受容し抱擁する力強さを感じる。また、職員を思い、「職員を大事にすれば、大事にされた職員は利用者を大事にしてくれる」と、母の笑顔がある。次期管理者の育成・職員育成も、母性の取り組みである事が感じ取れた。近隣の広場でつくしを取り、お土産にいただいたが、今日一日でいただいたものは他にもたくさんあった事を特記したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での具体的提案事項は、供用デイサービス等の新事業進出・ホーム便り(瓦版)発行等、認知症高齢者介護の専門家としての地域貢献部分であった。現在までに、供用デイサービス・居宅介護支援事業所の申請を済ませ、いよいよ事業開始の見込みである。ホーム便りに関しても発行の運びとなる事が期待できる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価を行い、ホームの取り組みの振り返りの機会としている。また、職員の意識確認の機会にもなっており、利用者支援の意識統一をサービスの質の向上へつなげる取り組みを実践している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね2カ月に一回の会議開催を目指し、活発な活動がある。さらに、会議の場をホームの活動報告の場に留めることなく、会議メンバーをホームイベントに招き、認知症高齢者をさらに理解してもらう取り組みにつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	今回家族アンケートでも、利用者本位の支援に、家族から感謝の言葉が多く寄せられており、ホームから家族への適切な報告が推察できる。また、利用の長い利用者・家族との信頼関係の裏返しとも言える「おまかせ」状態の苦慮が、新しい利用者の入居等が良い風となり、払拭された感がある。新たな体制作りの一環としても、家族意見の聴き取りを積極的に行い、運営に反映させる体制の構築を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	管理者は地元出身であり、また、地元からの職員雇用を促進し、ホームと地域・利用者との壁を乗り越えるような、頼もしい取り組みがある。地域行事にはホームとして積極的に参加し、散歩・外出での挨拶・立ち話は日課となり、地域の一員としての自然な日常がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「大家族」のホーム理念の下、地域で暮らす一世帯の生活がある。全ての利用者・職員が家族の一員であり、どんなことでも分かち合う事をホームの「思い」としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は管理者が確立した「ホームの思い」をよく理解し、自分の家族に対してどのように対応して行くかの方向性を統一し、日常支援の方針とし、理念実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地元出身であり、また、地元からの職員雇用を促進し、ホームと地域・利用者と地域の壁を乗り越えるような、頼もしい取り組みがある。地域行事にはホームとして積極的に参加し、散歩・外出での挨拶・立ち話は日課となり、地域の一員としての自然な日常がある。		地域の人たちが気軽に立ち寄れ、集いの場となる構想で喫茶サロンを開設したが、現時点では課題を残す結果となっているのが残念である。運営推進介護等、地域と関わる機会に幅広く紹介を依頼する等、今後の活動が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を行い、ホームの取り組みの振り返りの機会としている。また、職員の意識確認の機会にもなっており、利用者支援の意識統一をサービスの質の向上へつなげる取り組みを実践している。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2カ月に一回の会議開催を目指し、活発な活動がある。さらに、会議の場をホームの活動報告の場に留めることなく、会議メンバーをホームイベントに招き、認知症高齢者をさらに理解してもらおう取り組みにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との信頼関係は確立している。ホームの体制・管理者の人柄を頼り、困難事例の相談もあり、ホームとしても最善方法での対応を実践している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に家族来訪時の口頭での説明となっている。緊急・急変の場合は随時適切な対応で、連絡・報告を行っている。今回家族アンケートでも、利用者本位の支援に、家族から感謝の言葉が多く寄せられており、ホームから家族への適切な報告が推察できる。		前年度から構想を継続している「瓦版」を、今年度はぜひとも実現していただきたい。ホーム全体の様子を知りたいという家族の意見もある事から、今後の取り組みに大いに期待するところである。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用の長い利用者・家族との信頼関係の裏返しとも言える「おまかせ」状態の苦慮が、新しい利用者の入居等が良い風となり、払拭された感がある。新たな体制作りの一環としても、家族意見の聴き取りを積極的に行い、運営に反映させる体制の構築を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が24時間ほぼ365日を利用者とともに生活し、家族関係の構築に配慮している。また、在職者とも多少の生活環境変化には揺るがない関係が確立されており、十分な利用者本位の支援が見て取れる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(現管理者)は職員育成に努め、また、自らも職員とともに研修に出かけ、自己研鑽を行っている。東京・横浜等、遠方で開催する研修にも、ホームが補助をして研修参加を促している。取り組みが功を奏し、管理者候補の育成、在職者の資格取得等、計画に則った実現がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会での交流他、管理者の人脈による交流会も多く、相互に交流を深める事でサービスの質の向上を考える機会としている。また、専門医が医療から考える認知症セミナー等の企画を行い、職員レベルの向上を考えた取り組みを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>管理者は、ホームが地域密着型となってからは、遠方からの見学・利用者と家族の納得のゆくまでの話し合い・お試し利用等が少なくなった現状を憂いている。しかし、限られた地域の中の急性期対応のケースの中でも、古民家の雰囲気・家族的な雰囲気で、利用者が安心して暮らせる場の提供を工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>『ありのまま』を生きる方針は、利用者・職員に浸透し、強制のない、自然体の生活を実現させている。大声を出すのも笑うのも、怒るのも泣くのも喜怒哀楽を表わせる人間のしるしとして、ホームのルールになっている「いいこと・わるいこと」の共有で、大家族の和を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で得た「エピソード」から利用者の訴え・状況の把握を実践している。聴き取った「エピソード」は介護日誌に記録し、職員への周知を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護日誌から日々の本人の訴え・状況を把握し、介護計画に反映している。家族の意向もふまえ、介護計画を作成し、職員間でケアの方向性を定めている。また、週間ケア表を利用者一人ひとりの居室に掲示し、利用者の一日の流れを職員間で把握している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>急変の場合には、介護計画はケアの方向性を定めるものとして、職員間で共有し、利用者の状況・状態に合わせ、ケアの内容を随時変更・対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	サロン開設・認知症相談受付・近隣高齢者への食事提供等、地域に対して開かれた事業所を目指している。今後はさらに具体的に、認知症共用デイ・居宅介護支援事業所を申請し、地域貢献に取り組んで行く計画がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	柔軟に受診・通院支援を行ない、24時間体制・緊急時体制も整え、利用者・家族の安心に込めている。また、特に認知症専門医受診に対しては、家族と密に話し合い、利用者が適切な医療を受信できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・本人・医師と連携をとり、意向・要望の聴き取りを行っている。その後職員間で話し合い、利用者・家族の意向の把握・共有を行い、ケアの方向性を定めている。以前から終末期ケアを行っており、管理者・職員の病院勤務経験を活かした方針・体制等の確立がうかがえる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけるような言動は全く見られず、職員と利用者の良好な信頼関係は、視察時の相互の言葉かけ・対応から見て取ることができた。また、利用者の記録をはじめとする個人情報に関しては、ファイリングでの一括管理を行い、適切な配慮がある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を送る場ということから、大まかな日程は決まっているが、その日程の中で、利用者一人ひとりの個別ケアに努め、利用者のペースを大切にしている。散歩・外出・外食等の希望、自室でのんびり過ごす希望等、利用者それぞれの希望実現がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問当日は外食の日で、普段は小食と言われる利用者も品数・量の多い一人前を完食していた。職員は利用者の外食をすることの喜びを理解し、ホームでの食事だけでなく、外食の楽しみも共有している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴となっている。介助が必要な利用者が多く、職員の配置人数の多い時間帯での入浴となっている。その中でも、複数入浴・近隣の福祉湯の利用等、工夫を凝らした支援がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	つくし取り、干し柿・芋きり・げんこつ飴作り等、利用者が興味を持って取り組むことができるように支援を行っている。採取したつくしは利用者の食事に用い、利用者の楽しみ事の一つとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩・外食・ドライブ等の外出支援を日常的に行っている。利用者の一泊旅行の取り組みもあり、職員の外出への積極的な取り組みが感じられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは玄関の施錠は行っていない。また、管理者・職員は施錠の弊害について深く理解し、利用者の外出支援を積極的に行い、閉じこもらない介護を実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から、外出・屋内段差等で、利用者の機能残存を図り、避難訓練では素早く非難する利用者の姿が見られたとの事であった。緊急時の近隣との協力体制も整い、もしもの場合に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は食の大切さを深く理解し、多品目摂取、肉よりは魚等、利用者の栄養バランスに配慮した適切な支援がある。摂取量は記録に残し、利用者の健康維持に活かしている。水分摂取についても同様に、利用者毎に管理・記録を実践している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型であり、ホーム内は懐かしい雰囲気があふれている。居間・和室等の共用空間は広く、程よい採光がある。窓からは中庭を眺めることができ、風・光・木々の変化からも、季節を感じる事ができる。共有空間にある「おばあちゃんの家」の雰囲気はホームのカラーとも言える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の引戸はよしず戸であり、居室にいても、常に誰かの気配を感じることができ、逆に外からもさりげなく中の様子をうかがう事ができるようになっている。また、風通し・温度調節にも配慮し、利用者が安心・安全に生活できる場の提供に努めている。		